

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学

# 財務報告書

Financial Report 2015



NAIST®

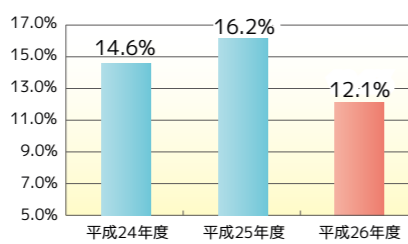
無限の可能性、ここが最先端

-Outgrow your limits-

## 財務データでみる奈良先端大

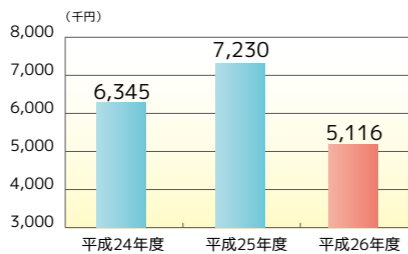
### 外部資金比率<sup>※1</sup>

外部資金収益（受託研究収益・受託事業収益・寄附金収益）の収益全体に占める割合がわかる指標です。本学の外部資金比率は国立大学法人の全国平均である9.7%（2014年度）と比較して非常に高い値を示しております。前年度比較の減少は、大型の受託研究の終了に伴うもので、受託研究や寄附金の更なる獲得を模索しております。



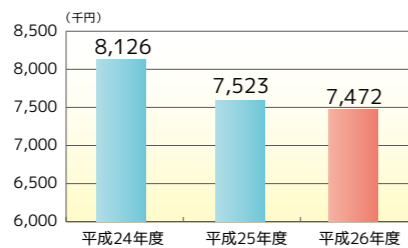
### 教員一人当たり外部資金収益額<sup>※2</sup>

教員一人当たりどれくらいの外部資金収益を獲得しているのかわかる指標です。平成26年度は前年度と比較して減少しておりますが、国立大学法人の全国平均である2,677千円（2014年度）と比較して非常に高い値にあり、本学の教員は他大学と比べ、外部資金獲得力が優れていることがわかります。



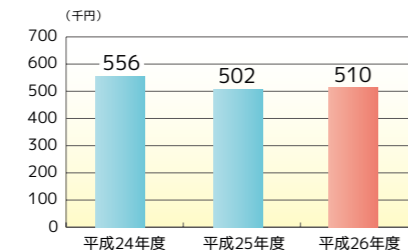
### 教員一人当たり研究経費<sup>※3</sup>

受託研究・受託事業を除いた財源を原資として、教員一人当たり、どれだけの研究経費を投資しているのかわかる指標です。平成26年度は前年と比較してわずかに減少しましたが、総予算内でのバランスを考えた投資を行っております。



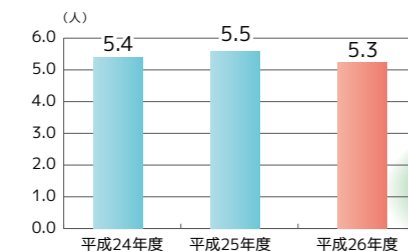
### 学生一人当たり教育経費<sup>※4</sup>

学生一人当たり、どれだけの教育経費を投資しているのかわかる指標です。教育経費は運営費交付金等の減少、補助金等の交付期間終了により減少傾向にありましたが、平成26年度は、スーパーグローバル大学創成支援事業に採択されたことにより、微増となっております。



### 教員一人当たり学生数<sup>※5</sup>

教員一人で何人の学生を担当しているのかわかる指標です。国立大学法人の全国平均が教員一人当たり9.7人の学生数であるのに対し、本学は5.3人となっており、他大学に比べ、教員の目が学生に行き届きやすい環境となっております。



# 「最先端」を追求し続ける奈良先端大

大学院大学として最先端の研究・教育を実現している奈良先端大の強さは、数字となって表れています。安定した財務内容と最適な研究・教育環境を基盤として、研究者・学生に対する十分な投資が、他大学には類をみない最先端の成果を創出しています。

卓越した研究成果が 新たな最先端分野の研究受託を生み出す好循環を実現

外部資金比率 **12.1%**

教員一人当たり外部資金収益 **511万円**

教員一人当たり研究経費 **747万円**

学生一人当たり教育経費 **51万円**

教員一人当たり学生数 **5.3人**

研究者・学生に対する十分な投資

教員一人当たり研究関連資産額 **896万円**<sup>※6</sup>

教員及び学生一人当たり教育研究支援関連資産額 **192万円**<sup>※7</sup>

一人当たり研究関連資産額

学生一人当たり教育関連資産額 **10万円**<sup>※8</sup>

本学の教育研究設備は最新・最先端のものを導入し、安定した財務基盤によって維持・更新されています。

研究・教育に最適な環境を整備

自己資本比率 **65.4%**

自己資本比率は財務の安定性を示す指標です。借入金による土地取得のため、若干低い値となっておりますが、今後償還に係る会計処理で少しずつ回復していきます。

流動比率 **60.0%**

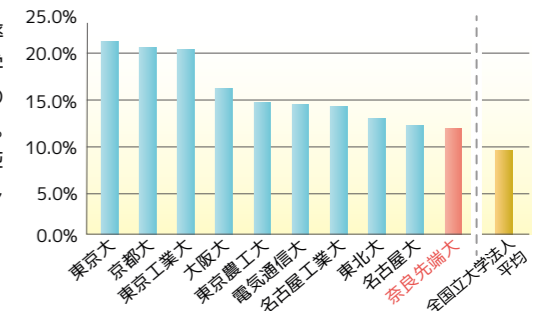
流動比率は支払能力を示す指標です。通常100%が適正と言われますが、流動負債には毎年予算措置される長期借入金の当該年度支払額が含まれているため、期末時点では低い値となっております。

安定した財務基盤

## ランキングでみる奈良先端大

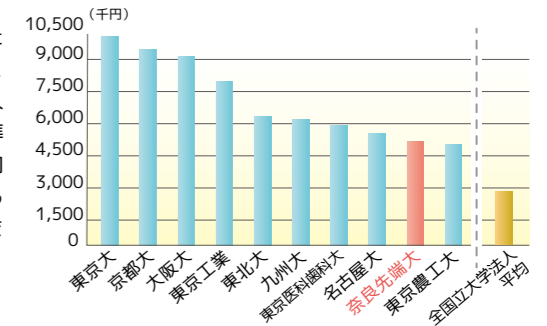
### 外部資金比率 (2014年度)<sup>※1</sup>

本学の外部資金比率は、全国86国立大学法人等の中で10位の水準となっております。国内の有力大学と匹敵する研究力を表しています。



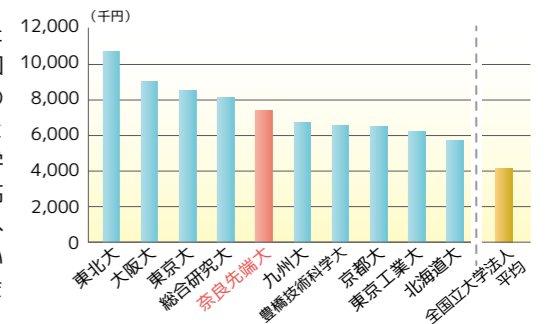
### 教員一人当たり外部資金収益額 (2014年度)<sup>※2</sup>

本学の教員一人当たりの外部資金収益は、全国86国立大学法人等の中で9位の水準となっております。国内有力大学と匹敵する研究力を表しています。



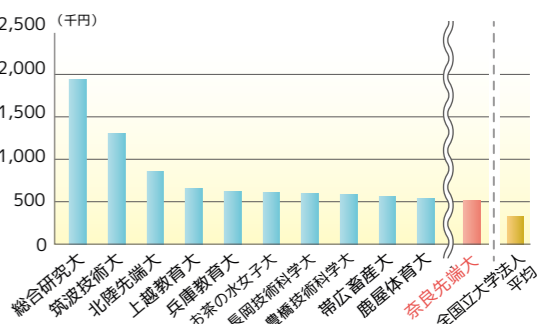
### 教員一人当たり研究経費 (2014年度)<sup>※3</sup>

本学の教員一人当たりの研究経費は、全国86国立大学法人等の中で5位の水準となっております。他大学と比較して、非常に高い水準の研究経費への投資額を行っていることが表れています。



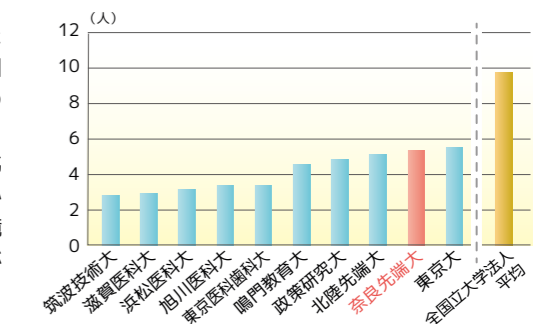
### 学生一人当たり教育経費 (2014年度)<sup>※4</sup>

本学の学生一人当たりの教育経費は、全国86国立大学法人等の中で15位の水準にありますが、全国平均の305千円を大きく上回る額となっております。



### 教員一人当たり学生数 (2014年度)<sup>※5</sup>

本学の教員一人当たりの学生数は、全国86国立大学法人等の中で9位の水準となっております。他大学と比較して、よりきめ細かな教育研究指導環境が整っていることが表れています。

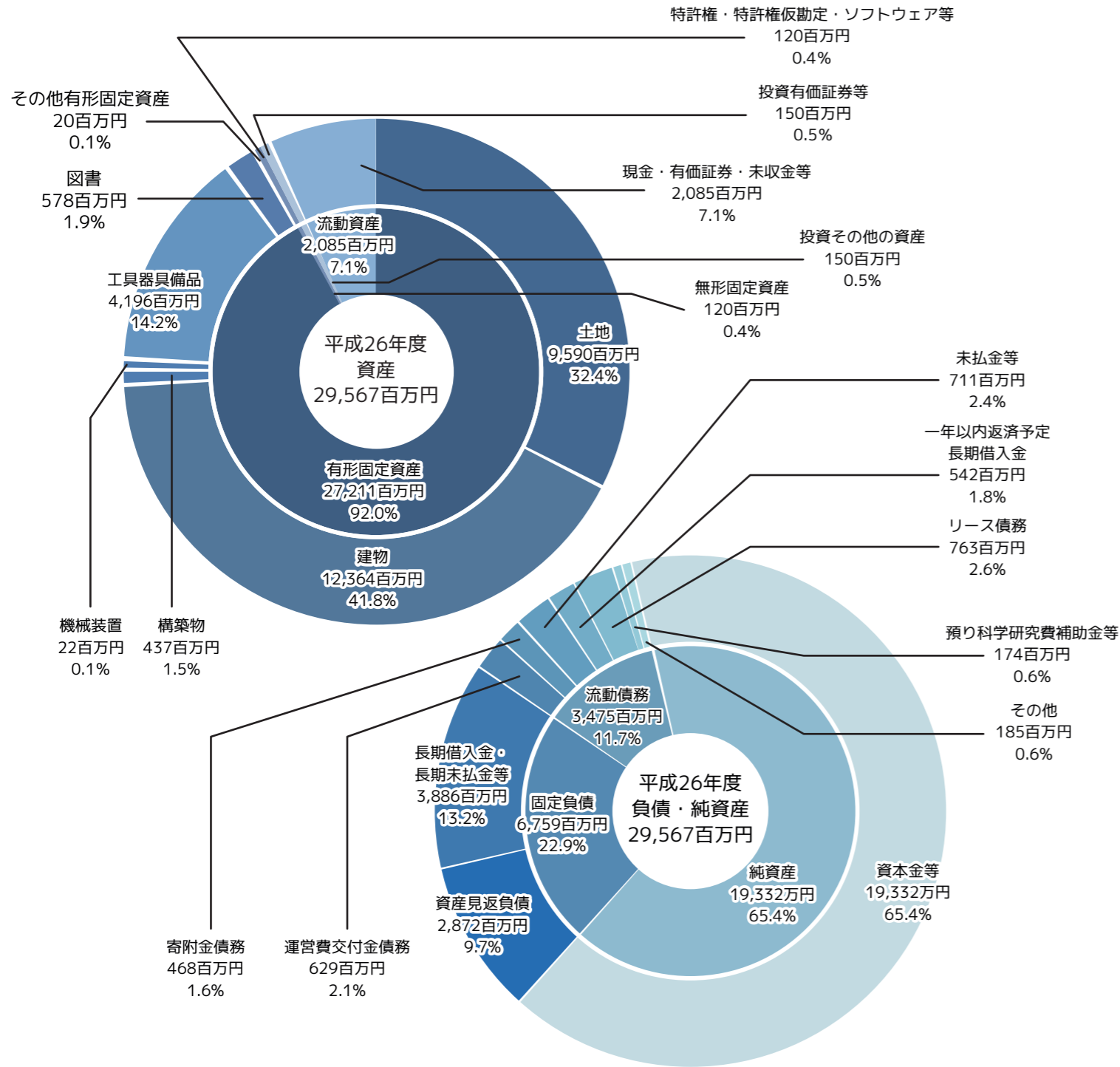


データ出所 奈良先端科学技術大学院大学財務諸表等及び事業報告書、文部科学省「国立大学法人の平成26事業年度決算等についての別紙資料集」

※1：外部資金比率=(受託研究収益+受託事業収益+寄附金収益)÷経常収益、※2：教員一人当たり外部資金収益=外部資金収益額÷教員数、※3：教員一人当たり研究経費=研究経費÷教員数、

※4：学生一人当たり教育経費=教育経費÷学生数、※5：教員一人当たり学生数=学生数÷教員数、※6：研究関連資産÷教員数、※7：教育研究支援関連資産÷(教員数+学生数)、※8：教育関連資産÷学生数

## 平成 26 年度貸借対照表の状況

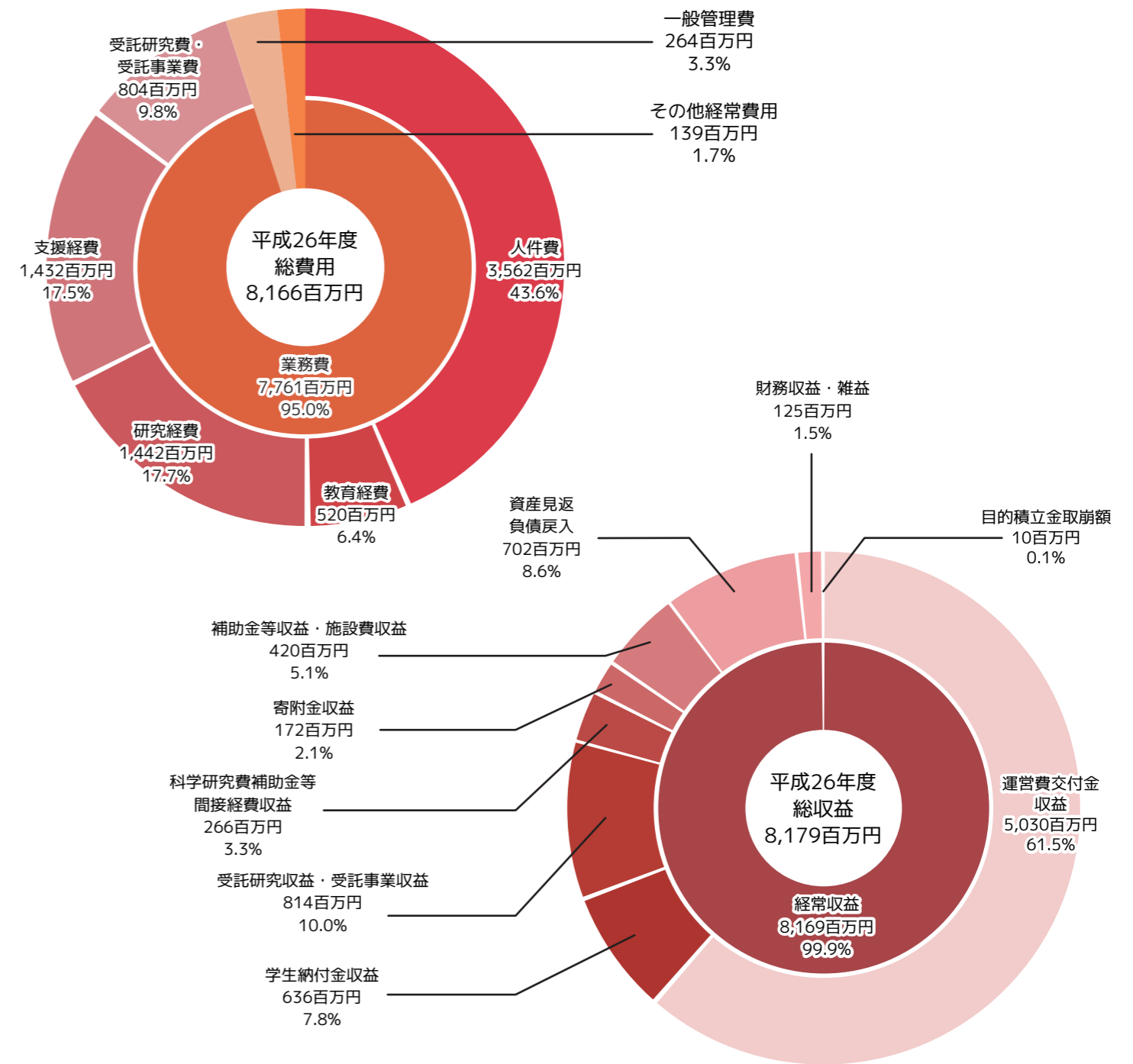


### 貸借対照表

貸借対照表は、資金の調達源泉とその運用形態を表しています。国立大学法人は国から出資された資本を活用して、教育研究活動を行っています。また、国立大学法人等特有の会計処理があり、一般の貸借対照表とは少し見慣れない勘定科目も存在します。

貸借対照表の資産のうち約9割を土地、建物、教育研究機器等の固定資産が占めています。よりよい教育研究活動を支えるためには最良の設備が必要となるため、固定資産が多くを占めることとなります。平成26年度は、平成27年1月末に廃止した学園前職員宿舎の土地について、減損会計処理を行っています。固定負債については、昨年度と比較して、用地買収借入金の返済が順調に進み、減少しています。

## 平成 26 年度損益計算書の状況



### 損益計算書

損益計算書は、国立大学法人の一年間の活動内容を表しています。その活動目的により、教育、研究、教育研究支援、一般管理等の費用区分で計上します。収益は、財源ごとのルールに従い計上します。期間経過により収益を計上する場合、効率的に活動することで利益が発生します。

損益計算書について、人件費の総費用に占める割合は、43.6%です。全大学平均48.6%と比較して低い値となっていますが、これは教員の流動性が高く、若手研究者が多いことによる特徴です。本学の主な収益は運営費交付金です。国からの資金である運営費交付金は毎年減額される中で、本学が高い教育研究水準を維持できるのは、受託研究等収益や補助金等収益などの外部資金をコンスタントに獲得できる優れた教員組織のたまものです。





本件に関するお問い合わせ先

**国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学** 管理部会計課決算係

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916-5 (けいはんな学研都市) TEL:0743-72-5035 本学ホームページ : <http://www.naist.jp/>